

# 洛友會會報

京都大学工学部  
電気系教室内  
洛友會  
京都市左京区吉田本町

## 陽春雜記

副会長 大谷泰之

本會報が会員の皆様へ届く頃は卒業、入社、入学のシーズンも終り、日本列島の季節の移り変わりも、異状な多雨高温の暖冬のせいで桜前線の北上も急速に進んでいる事と思われる。ご承知の通り今年も政治経済社会各界の世界的な大激動大変革且つ不透明な年を迎えている。

会員の皆様も益々ご健勝にお越しの事とお喜び申し上げます。わが洛友会も今春約一二〇名のフレッシュな新会員を迎え入れ、会員総数も物故者や住所不明者を除くと約五三〇〇名を超えることとなる。茲で本会としても新入会員の皆さんの洋々たる前途の発展と多幸を祝福すると共に心から歓迎する次第である。

次に別稿の通り本部常任幹事竹

村清氏（事務局のある応用科学研究所常務理事）が昨年8月突然心筋梗塞で倒れられ養生の甲斐なく去る11月逝去されたのに伴い、会務の進捗（名簿発行、広告募集等）に大支障を来したが、山口前常任幹事や神戸俊夫本部幹事等のご協力のお陰で会員名簿も漸く昨年12月始めに発行出来た上、会報の新年号も多数のご投稿を頂いて150号記念として発行することが出来た。茲に改めて格別のご協力ご援助を頂いた関係の皆様へ厚くお礼申し上げる次第である。

次に本会会長松田長三郎先生は昨年11月28日満96歳の誕生日を迎えられましたが昨年来自宅でご静養中でありませう。尚誕生日の前日筆者も御宅にお伺いした節、先生は「この調子では皆さんが100歳迄

大丈夫とよく言っていて下さるが、自分は105歳を目標に余生を頑張つて生きたい」と話しておられ、更に本会報の前号にもある通り、清野武名誉教授の草木花の水墨画の個展を見られた後であったので、先生も大変感動され自分も100枚以上の文書面が貯っているのその個展を開きたい等の話をお聞きして、筆者も全く畏敬の念に打たれた次第であった。又先生は最近殆んど外出されることも少い由ですが、それでも本年1月4日大学本部で開かれた名刺交換会にはお元気なお姿を見せられ挨拶を受けた後短時間で帰宅されました。

さて去る3月17日京都駅前前のタワーホテルで開かれた平成2年度の本部役員会には、本年90歳のご高令を迎えられた芦原義重副会長はじめ全国各地から各支部長等計19名の役員が出席され、例年通り前年度事業報告収支決算見込と本年度事業計画や予算案等が審議され原案通り承認された。その内容は何れ本部総会へ来る6月2日京都のホテル京阪で関西支部総会と合同）での審議を経て、次号会報に報告されることになっている。

又、常任幹事長の近藤文治先生は応用科学研究所理事長や大阪電気通信大学学長等を勤めておられ極めてご多忙の中を役員会に提案する本部会計等の詳細な計算処理を竹村前常任幹事から何の引継もない状態で、矢木原事務局長の援助を受けつつ、苦心惨胆自ら処理をされ、更に本会事務運営の抜本的な見直し改善案の提案（会費値上げを含む事務処理機能強化対策等）を役員会に提出、審議された。これは何れ各支部で充分時間をかけて討議して頂き、出来れば来年度から実施したい意向である。何れにしても近藤先生の格別なご苦勞に對して本会としても感謝に堪えない次第である。

尚又役員会当日には川端昭副会長から教室近況について、各支部長等から支部の近況報告があり名簿広告募集等の苦勞話があった。其他最近の卒業生の就職について製造業離れや金融中心のサービス業就職対策等の話題があった。

最後に別稿故竹村清氏追悼文の通り竹村清氏は本会常任幹事として本会の事務局で特に会員名簿の電算化等の事務処理合理化に全く頭の下る献身的な努力を傾注して頂いていた処、不幸にして昨年8月25日、本会の仕事で母教室事務室に行かれた節、教室前で突然心筋梗塞で倒れ人事不省になられたため、ご遺族の看護の甲斐もなく意識も回復されることもなく遂に昨年11月10日逝去されました。本洛友会として茲に同氏の絶大な献身的なご功績を偲び同氏の逝去を衷心より悼みご冥福を心からお祈りする次第である。

終りに新入会員をはじめ会員の皆様のこれからの益々のご健勝とご活躍ご多幸を祈ると共に、本会発展充実のためご尽力ご援助頂いている本部及び各支部役員其他の皆様にも末筆ながら感謝申し上げる次第である（平2・3・19記）

### 竹村清洛友会事務局長を偲ぶ

### 追悼

昭和13年講卒  
豊原 富弘

竹村君は自宅の嵐山から応用科学研究所まで車を運転して朝早く道が混まない間に出勤するのが習慣で土曜日は途中病院に寄って心臓を診て貰って来ていた。声を掛けると74年も動き続けているので多少故障しても仕方がないと笑っていた。

疲勞のため二週間程入院し初出勤の朝礼で長い間休んで皆様に迷



惑を掛けましたが医者から平常通り動いて良いと言われたと挨拶してから2時間もたたない内に竹村さんが電気教室の前で倒れたと聞いて驚きました。早速矢木原工場長を初め数人で教室に駆けつけましたが既に百万遍の近くの安井病院に救急車で運ばれた後で病院をたづねた時は電気ショックの治療を受けていた、間もなく中央病院に移されることになり、医者、工場長と藤村先輩が同行、直ぐに手術することと思っていたが酸素吸入と点滴がされて2ヶ月半の間、無意識の状態が続きました。その間御夫人初め御家族の手厚い看病の甲斐も無く他界されたことは返す返すも残念でなりません。

接の実験を手伝っていた。放電で大きな音がして手が動いて書いてる字が崩れることがよくありまして。講習所を一緒に卒業してから戦中戦後の50有余年の長いつき合いで、戦時中は空腹のため宇治の茶屋まで一杯の白い御飯を食べるのに態々京都から出掛けたこともありまして。

先輩友人が集まると必ず上西先生を話題に出す彼は大変な恩師思いでした。私が世話になった安藤先生は6年前に亡くなり上西先生はご健在で彼を羨しく思っています。病院に見舞って頂いた先生に一言のお礼も言わずに亡くなったことは彼の性格を知る一人として残念だったことと想像します。

一昨年開催されたデルタ会の彼の提案で13年卒の50周年記念に婦人同伴でクラス会を開いた。7組の者が北山の名所を巡って嵐山の嵐亭で一泊した楽しい思出を残して呉れた。今年は彼の金婚式だから友人が集って長い間断つていい好きな酒を勧める心算でした。

3年前に大阪から京都に引揚げて彼に勧められて恩師、先輩、友人、と思出の多い応用科学研究所に勤めるようになって毎日顔を合せてたのも不思議な因縁だったと思えます。

数々の思出が浮びますが何程も書けません。長い間の友情有難た

う嵐山の天龍寺で安らかに眠られることを祈ります。

### 竹村清氏を偲んで

洛友デルタ会幹事長  
昭和14年講卒

神戸 俊夫

平成元年8月25日応用科学研究所の竹村事務局長が京大講内の電気教室玄関前で心筋硬塞で倒れたとの連絡を受けて入院先へお見舞ひに参りましたが意識不明でした。その後は入院時のま、で意識は戻らず、遂に11月10日夕、ご家族や先生方のご看護の甲斐もなく永眠され不帰の客となられました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

竹村さんのお付き合いは私が昭和14年に講習所卒業後、鳥養先生の研究室にお世話になった時から50年の長年月がたちます。洛友デルタ会創立時より幹事としてご盡力を頂きました。思い出の一つとして洛友会の名簿があります。

洛友会創立30周年の記念事業として名簿の電算化があり、当時彼は作業の一部を分担され完成後、講習所卒業生の住所欄の空白が非常に多いのでこの整理について相談を受けた。なにしろ卒業後30年、40年も経てその間何の音信も

ない方をどの様にするかで議論しその結果名簿が発行される毎に、非常に大胆なことですが不明者は全て死亡者扱ひとして先存が確認されたら復活することにした。その後名簿発行毎に

(1) 大正年度

(2) 昭和2~5年

(3) 昭和6~10年

(4) 昭和11~15年

の整理がようやく終わった。これも竹村さんのお陰げと思っている。またデルタ会の総会の開催案内文は洛友会報に記載して頂いており今年度は第8回目になります。

会の企画、進行については竹村さんの企画力と行動力に頼っていましたので準備の事を思うと今年は相当苦勞すると思えます。

生死は人の世の常とは言え竹村氏を失ったことは痛恨の極みであります。ここに重ねて同氏のご冥福とご遺族様のご清福をお祈り申し上げます。

### 事務局長を偲ぶ

昭和15年講卒

上野 満

昨年11月11日竹村さんの訃報に接し大変驚きました。入院中お見舞に参上後、ご快癒を念願しておりました。真に惜しみても余りあ

る方を無くして、悲しみに耐えませんが、今もって存りし日を偲んで萬感胸を刺す思いです。生者必威会者定離と思いつながら人の寿命の果敢なきを歎かずにはおられません。

竹村さんを偲ぶにあたって、直ぐ上西先生の事が思い出されます。竹村さんは終生先生を人生最高の師として、師弟の誠を貫かれた方だと信じております。御自身は口には出しませんが行動において師弟とは斯くあるべきと無言のご教導を賜りました。

憶出は遠く過去半世紀前に遡りますが、竹村さんに初めて出会ったのは昭和13年竹村さんが講習所を卒業された年でした。当時上西亮二先生の許で助手として高圧放電現象の実験に取組んでおられた。同室に岩本国三氏(11年講卒後同志社大教授・工博) 故奥田一郎氏(11年講卒後愛媛大教授・工博) が来られ共に先生の助手として実験に参加されておりました。

また竹村さんは研究実験の傍ら電気科の学生実験の指導もされ、私は同室ではなかったが(旧館南第八実験室)同じ鳥養研の末輩として何くれとなくお世話をかけておりました。当時雷の放電現象に就き毎夏季に雷放電で有名な群馬県に全国有数の大学および民間の関係学者技術者が集り雷放電の研究

が行われていた。京大班では上西先生指揮の許に若かい近藤文治先生を初め、竹村、岩本、私も末員ながら参加させて載き前橋放送局に陣取り雷様に挑戦しました。他班は赤城山等にいました。当時、東京―大阪間の輸送が8時間程、前橋までの往復も大変で、いつも竹村さんのお世話になり、辛くもあり、また楽しかったのも憶出の一つです。

次の嬉しい憶出は昭和15年吉月上西先生御夫妻のご媒酌で夏子さんを迎えられ一男一女の父となり羨しいご家庭を築かれました。今ご遺族になられたが長男敏君は榎日立コンピュータエレクトロニクスの主任技師として活躍、長女靖子さんは西本家に嫁ぎ幸福にお過しと聞き及んでいます。

現在産業界の米と言われる半導体の研究について振れますが、我々国において戦前すでに鳥養先生の許で研究が始められ、前応研理事長吉田洪二先生および西垣正彦先生(理学部物理学科出・鳥養研)、竹村さん、私も参加していました。実に日本半導体研究の先駆でした。竹村さんは上西先生の許で真空技術を得られ優秀な技能を身に付け、その技術を駆使して当時としては画期的な半導体(セレンウム)の表面に真空蒸発法により、アルカリ、アルカリ土金属等を蒸着し

て人工的膜層を形成せしめてセレン整流体の逆耐電圧を著しく向上せしめました。鳥養先生始め同研の先生方を喜ばした。当時のレーダーの電源にはセレン整流体を用いられていたのが喜ばれるのは当然の事でしょう。この発明により当然三極真空管のように第三極グリッドの挿入と言う発想が生れて来るのは当然の事ですがその後の研究は割愛させて載きますがその後シリコン整流体およびトランジスターが登場して急速に半導体ブームが起り我国ハイテク産業界の支柱と申しても過言ではない程度發展しました。現代の技術水準から見れば半世紀前のデータは興味ないでしょうが、科学者の一日の研鑽の積重ねこそ、やがては偉大な成果として表はれるものであると信じます。

右記の様、竹村さんは非凡な頭脳と優秀な技能の持主でしたが終戦後教室に別れを告げて産業界に身を投じ、日本電子科学(株)の取締役技術部長から応用科学研究所の事務局長を務められました。また洛友会の常任幹事として同窓会員のお世話をされ副会長長大谷先生も激賞されたように『人のため世のためつくされた』一生でした。思い出はつきませんが近年にはへボ基の私に「上野君わしは無趣味だからせめて老後は囲碁でも楽

しみたいから教えて呉れよな」と言はれた言葉が耳に残り自然と目頭が潤んできます。何のご恩返しも出来ず慚愧の念に耐えませぬ

が今は幽朋の境を異にし只ひたすら菩提を願ひ謹んで御冥福を御祈り申し上げます。

### 平成二年度洛友会総会通知

一、年月日 平成2年6月2日(土)

一、場 所 ホテル京阪京都TELE75166110321 (J R 京都駅八条口前アバンティ東側)

一、行 事 受 付 15:45~16:00

関西支部総会 16:00~16:30

本部総会 16:40~17:10

懇 親 会 17:25~19:00

一、見学会 平成元年8月26日落成した電気系教室新棟西館の見学を行なう。

電気系教室新棟西館ロビー集合 14:00

新築教室・イオン工学見学 14:00~15:00

京大出発／総会会場へ 15:15~15:45

一、会 費 会 員 四、〇〇〇円

同伴者 二、〇〇〇円

ただし平成2年3月卒業者は無料

会費は別紙総会用振替用紙にてお払込みください。なお、これで総会出席通知に代えますので、ご出席の方は5月15日までにご返事をお願いします。本会へはご家族同伴を歓迎しますので、多数お誘い合せの上ご出席ください。

### 電気系教室だより

#### 定年退官に際して

川 端 昭



小生は平成2年3月31日に京都大学を定年退官致します。昭和28年4月助手として勤務しましてから37年間、大過無く過ごさせて頂いたと思っておりますが、偏に教職員皆様のご指導とご支援のお陰であると心から感謝しております。田中哲郎京大名誉教授のご指導のもと、強誘電体材料とその応用に関する研究に従事してまいりました。昭和42年1月電気工学第二学科音響工学講座、電気系教室の改組により昭和46年より量子エレクトロニクス講座を担当し、主として圧電材料、音響光学材料、電気光学材料、焦電材料など単結晶セラミックスならびに薄膜につい

て、いわゆる機能性電子材料の作製とその応用に関する研究をして参りましたが、この点についても研究室の各教官と多くの学生諸君に厚くお礼を申し上げたいと存じます。

さて、定年に際しては、小生の希望により教室主任の御了解をえて、研究室とその卒業生や関係者のお世話により別記のように退官パーティを開催して頂くことになりました。最後まで小生のわがま

まをお許しいただき感謝致しております。

私事ではありますが、平成2年4月に新設される次記の大学に奉職することになっております。今後とも、従来と変わりなくご交誼のほど、お願い申し上げます。

〒939-103 富山県射水郡小杉町黒河  
富山県立大学工学部電子情報工学科

### 川端 昭教授 退官記念講演・記念パーティのご案内

#### 一、退官記念講演 (電気系教室主催)

日時 平成2年6月16日(土) 午後1時30分より  
場所 きょうと平安会館 於1F「平安」の間  
〒602 京都市上京区御所中立売御門前  
TEL (〇七五) 四三二一六一八

#### 二、記念パーティ (退官記念会主催)

日時 平成2年6月16日(土) 午後3時より  
場所 きょうと平安会館 於2F「東山」の間  
(問い合わせ先)  
〒606 京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部電子工学教室  
川端 昭先生退官記念会幹事代表 塩寄 忠  
TEL (〇七五) 七五三一五三〇九・五三二〇  
FAX (〇七五) 七五一一一五七六

### 平成元年度電気系 教室卒業生の進学 就職状況。

電気系教室主任  
昭和30年卒 西川 禎一  
電子工学教室主任  
昭和31年卒 小倉 久直  
電気工学第二教室主任  
昭和37年卒 松波 弘之

電気系教室平成元年度卒業生の進学並びに就職状況についてご報告申し上げます。

学部卒業生一八名(留学生を含む)のうち、八三名が大学院修士課程へ進学(京都大学電気系七九名、応用システム科学二名、理学研究科一名、東亜大学電気一名)、三三名が就職の予定です。また、一名が京都大学医学部へ、留学生一名が帰国予定となっております。なお、このほか二〇名が留年して再度大学院に挑戦する予定です。大学院修士課程の修了者については、九〇名のうち一〇名は博士後期課程に進学、七八名は就職し、一名は大阪大学医学部進学課程に、留学生一名は帰国予定です。さて、大学院の修士課程には、上記の七九名のほか、京都大学工学部機械系学科、同志社大学、京

都工芸繊維大学、徳島大学から各一名ずつの計四名、および中華工学院、ダッカ大学からの留学生二名を加えて、合計八五名の新修士一回生を迎える予定です。博士課程には、内部からの進学者一〇名(留学生三名)に、パングラディッシユ工科大学から一名を加えて合計一一名が進学します。博士課程への進学者のうち、留学生の占める割合は約三割強で、昨年とほぼ同じであります。率直に申して、我々としては、日本の有為の学生が、もう少したくさん博士課程に進学してくれることを願っています。

就職の状況は別掲一覧表にまとめてあります。今年度も、各方面にわたる多数の会社からの求人があり、電気・電子の卒業生の活躍の場がいかに広がっているかを如実に示しています。比較のために同表の(一)内に昨年度の内訳を示しましたが、電気関連メーカーへの就職が回復したように見えます。製造業関係者のご努力の現れと思いますが、学生は業種間の給与の格差や厚生関係にも重点を置いて選択をするようで、その志向は製造業関係者に決して楽観を許すものではありません。約一〇名ほどは、大企業よりも、興味をもった仕事ができそうだとということで、専業に近いメーカーや研究所を選択したようであります。

本年も金融・報道など第三次産業の求人意欲が強く、学生の興味を惹いたようです。結果的には、

種別	学部	修士	進路先
官公庁・校力	1	1	通産省、特許庁
	(1) 2 (4)	(2) 9 (9)	東京電力、中部電力、北陸電力 関西電力、中国電力、四国電力 九州電力
通信・放送	1	8	NTT、KDD、日本テレコム、 フジテレビ
	(1) 13 (12)	(8) 46 (36)	三菱電機、日立、松下電産、東芝 日本電気、ソニー、富士通、三洋電機 シャープ、住友電工、松下電工 キャノン、IBM、横河電機、リコー ミノルタ、パイオニア、福井村田、 ビクター、ファナック、日本電子 ヤマハ
機械・化学 鉄鋼・その他	4	8	新日鉄、神戸製鋼、川崎製鉄、 住友金属、川崎重工、三菱重工 トヨタ自工、本田技研、三菱自動車、 豊田中央研究所、三菱化成
	(5) (12)	(8) 12 (12)	JR東海、JR西日本、近鉄、阪急、 大阪ガス、日本タバコ産業 朝日新聞、野村総合研究所 大和総合研究所、京都高度技術研究所 東京銀行、三井銀行、富士銀行、 住友銀行、住友信託銀行、伊藤忠
交通・ガス ほか	4	4	
	(5) 8 (11)	(2) 2 (5)	
報道その他	1	1	
	1	1	
小計	33	78	
進学	83		京都大学大学院工学研究科(電気系専攻79名、 応用システム科学専攻2名) 京都大学大学院理学研究科1名 京都大学大学院工学研究科電気系専攻1名 京都大学大学院博士後期課程 大阪大学医学部進学課程 京都大学医学部 帰国 ( )内は昨年度の人数
その他	1	1	
計	118	90	

銀行五名、商社一名、証券系総研二名、新聞社一名と計九名に収まりました。

今年度も就職に関連しまして、洛友会会員の諸先輩に多大のご厚情を賜りました。紙面をお借りしまして厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援をいただきますようお願いいたします。

### 電気系教室

#### 教官の異動

次のような異動がありました。

松本祐治

平成元年10月16日、大型計算センター助教より有線通信工学助教に就任。  
(昭和54年情報工学修士修了)

石川順三

平成元年11月16日、電子装置助教より同教授に昇任。  
(昭和43年電子工学科卒)

中島弘之

平成2年3月1日、電気工学第二教室(上田研)助手に採用。  
(昭和59年電気工学第二学科卒)

川端 昭

平成2年3月31日、電子工学教

室(量子エレクトロニクス講座)教授を定年退官、4月1日より富山県立大学工学部電子情報工学科教授に就任。

(昭和28年電気工学科卒)

安達正利

平成2年3月31日、電子工学教室助手を退職、4月1日より富山県立大学工学部電子情報工学科助教に昇任。  
(昭和46年電気工学第二修士修了)

中村裕一

平成2年4月1日、電気工学第二教室(長尾研)、助手に採用。  
(昭和60年電気工学第二学科卒)

玉置 久

平成2年4月1日、電気工学第二教室(荒木研)、助手に採用。  
(昭和60年電気工学科卒)

橋本 岳

平成2年4月1日、電気工学教室(安陪研)、助手に採用。  
(平成2年電気工学博士退)

若原昭浩

平成2年4月1日、電気工学教室(佐々木研)、助手に採用。  
(平成2年豊橋技術大学情報システム工学博士修了)

山本正幸

平成2年3月31日、電気工学第二教室(木村研)、助手を退職、4月1日より三菱電機㈱に就職。  
(昭和60年電気工学第二学科卒)

小沢孝夫

平成2年3月31日、電気工学第二教室(電気回路網学講座)助教を退職、4月1日より竜谷大学理工学部数理情報学科教授に就任。  
(昭和32年電気工学科卒)

### 同窓会だより

#### 昭和16・3共振会

##### 秋季旅行会報告

平成元年10月19日13時総勢28名が新幹線岡山駅の中央コンコース待合室に集合、全員揃って出発。まず瀬戸大橋を渡る。流石に10年の歳月と1兆円の建設費を投じ、日本技術の粋を結集した2階建ての世界一の構造物だけあって、優美精緻堅牢さは驚歎の他はない。(ケーブルと桁を支える主塔の高さ194米、吊橋のケーブルはφ5.1耗のピアノ線を束ねてφ106纏で、M8.5の地震、70m/sの強風にも耐えるとの由)。やがてバスは与島に到

着、棧橋迄の道の両側の花壇は百花繚乱で龍宮城さながら、写真を撮る。

幕末に勝海舟を艦長として遣米使節船の大役を果し、近くの塩飽諸島の青年が乗組んだ威臨丸を模して造られた現代版威臨丸で、与島を一周する、甲板から間近に眺める橋脚・橋桁・奇岩・離合する僚船等は、すべて絶景である。上陸して南北備讃大橋を渡り切り、坂出港の西をかすめて丸亀市のホテルオークラに到着し、入浴・記念写真の後、宴に入り、会計報告のあと次第に諸芸続出、宴果てた後もグループ毎に憩い歓談する。

翌20日は快晴、窓外近くにはハマチの養殖場、遠くに瀬戸大橋の麗姿を望み朝食、8時半出発して高松城・ゴルドタワーの横を経て10時四国村に入り、祖谷のかずら橋のミニチュアをはしやぎつ、渡る。農村歌舞伎の舞台、円形観覧席、国指定文化財旧河野家前で記念撮影、甘蔗加工設備、楮蒸し小屋、染が滝、異人館を見て見学終了。車は大鳴戸橋を渡り、眼下に鳴門の渦潮を望みつつ、淡路島に渡り、福島の「やぶ万」にて、名にし負ふ新鮮な魚貝料理のお別れ昼食に舌鼓を打つ、次回は平成3年春卒業50周年大会を京都で開催することを決め、バスにて大磯港に向い、快晴の瀬戸内海を須磨港

迄渡る。JR須磨駅で遠来の諸氏は新幹線で、残りの者は名神高速経由新大阪で解散。

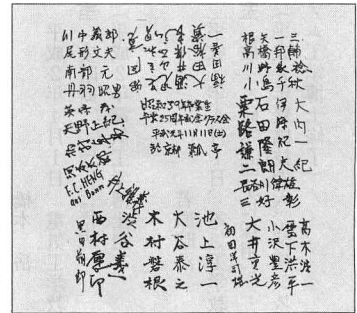
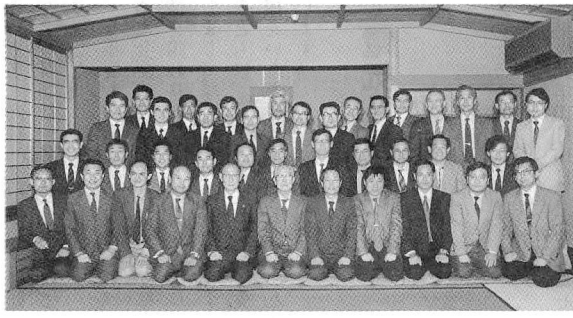
今回の旅行に当り、元四国電力社長平井氏に格別のお世話になり帰途、「讃岐うどん」のお土産を頂き衷心感謝の意を表する。  
(小林忠男記)



向って左より(後列)窪田、深海、田中、真砂野、坪井、嘉田氏の孫、嘉田、河辺、山本、則内、小原、(中列)秋田、大塚、平井、宮下、小林、森本、永安、橋、俣野(前列)玉井、森本夫人、平井夫人、橋夫人、永安夫人、山本夫人、嘉田夫人、小林夫人。  
(●印は夫人同伴者) 計28名。

# 昭和39年度卒業 25周年記念会

我々39年に電気・電子を卒業してから今年は25周年にあたり平成1年11月11日に記念同期会を開いた。第一部は改築なった電気工学科棟に集合し、英保君の計らいで国際交流室で林宗、木村両教授の講義を27名が久しぶりに傾聴。第二部は上御霊神社前の瓢亭で、林先生はお身体の具合で出て頂けなかったのは残念だったが、大谷・池上名誉教授・木村教授をお



迎えして宴席。38名の参加。青森から伊藤君、九州からも大田、大内君が駆け付けてくれたが、何といてもこの日のスターは西ドイツのボンから態々来てくれたヘン・フ・チョン君。KDDの天野君が居所不明であった君に電話し実現したもの。前々日の九日に破れたベルリンの壁について、「統一については、一・二次大戦に鑑みドイツの人々は非常に回りの国々に気を遣っている。日本ももう少し気を遣った方がよいのではないか」という言葉が印象的であった。情報化時代にはやはり人的ネットワークが必要というのが共通の認識であった。第三部は京都駅前の新都ホテルで列車の便に合わせて和気合い合いの懇談、次回五年後は現役最後なので派手にやろうということになった。楽しい一日であった。(留岡記)

## 中国雑記 (12)

昭和23年卒  
陶坊資

### 〃 仏像 〃

大学の時、よく大和路を散策した。丁度終戦直後の頃だったので、男手をとられた田園は、野良仕事に励む農婦の姿以外、殆ど人影も見えなかった、その静かな奈良郊外、大和三山あたり、みのに波打つ田園や、春風にそよぐ麦畑のどこまでも続く畦道を、そぞろ歩きながら、色々お寺巡りをしたものだ。YMCAにいた私がか、何故お寺に興味を抱いたのか、私自身よくわからないが、とにかく仏教徒でもなく、芸術家でもなく、且つ仏教文化を評論する気も、又その能力もない私は、ただ、古からの由緒深い寺院の伽藍や仏塔そして色々な仏像や彫刻を眺め、仏様の前に立つた時の、あの肅然とした雰囲気浸るだけが目的だった様である。要するに、しばし所謂俗世を離れて見たかったのかも知れない。

中国は、解放後、対外的には、宗教も認めるという事になっていったが、実質的には、マルクスレーニン主義の、宗教は阿片の教えに従って、全面的に否定され、道士、僧侶や神父らは、皆転職させられてしまい、ただ、歴史的に価値ありと認められた寺院の建築物および仏像のみ残された。所が、それもその後の「プロ文革」の騒乱で、又々多くが焼かれたり、壊されたりした。しかし、最近の対外開放政策により、これらの「阿片」の遺物も、観光資源として外貨収入を生み出すという現実的な価値が認められるに乃んで、仏教寺院も、至る所で大々的に修復され、宗教的行事もどん／＼復活している。そして今は、有名なお寺、例えば北京の碧雲寺、蘇州の寒山寺、杭州の靈隱寺等は、内外の観光客で、押すな押すなの大盛況である。

最近の中国のお寺は、確かに線香の煙が盛に立ち登るようになってきたが、観光収入が主目的のため騒々しくなってしまう、私は、特に誰かを案内する時以外は、余り積極的にお詣りもしなくなってしまう。以前は、各地に出張した折、特に田舎へ行つた時は、よく、誰も訪れない、ひっそりとした、廃屋の如き、名もない古廟をたずねては、残されてはいるが荒れ果てた仏像等をこっそりと眺めたりしたものだった。

中国には勿論沢山の仏像がある。夫々歴史もあり、いわれも深いであろう。私は、単に彌次馬の眼で見てもつたため、特に記録もせず、その詳細は殆ど忘れてしまつたが、ただ大ざっぱに、日本と比較して見ると、次の如くなる。勿論これは、あくまでも、素人の感受性による印象に過ぎず、これが信仰を以て見れば、又別の感情が湧いて来るのであろうが。

日本の仏像は、云うまでもなく、一般には、所謂「慈愛に満ち満ちた表情で、且つ威厳に溢れ、その仏前にぬかずけば、自ら一種の〃神々しい〃雰囲気酔うこととなる。それに比べ、中国の仏像は、全く感じが違うのだ。生ず、多くの仏像は、顔には金箔が塗られ、衣服も色鮮かに塗られている。その表情は豊かで、口元に微笑を浮かべているのも多い。神々しいというよりは、福々しいという感じである。極彩色のケバ／＼しい衣服をまとつた仏様が、金箔でツヤ／＼と輝いた顔で、ニタツと笑っているのは、我々の感覚で行くところでも、信仰の対称というよりは、人間味が有り過ぎて、生臭い。四天王や仁王様も、中国のは、ちつともこわい感じがしない。五百羅漢も、中国各地のお寺で見られるが、その夫々の表情は、悲喜交々の現世を表現しており、日本の羅漢様と比べると、はるかに人間臭く、時には一種のユーモアさ

え感じさせられる。大黒様に至っては、あのでっぱり太ったお腹を突き出し、テカ〜と脂切った顔で、ニタリと笑っているのを見ると、いかにも精力絶倫といった感じさえるのだ。

これらの生臭さ、即ち人間味溢れた最高の表現が、あの有名な観喜仏なのである。北京の雍和宮の観喜仏は、今は胸から下は、大きな腰巻で被ってしまっているの遺憾ながら、かんじんの所は、外からは見えない。この人生の観喜の絶頂を表現する仏像は、ある皇帝が成婚の折に、子孫繁栄を祈って作られたとの事である。日本では、この様な仏様は、未だ見たことがない。

上海には、一風変わった仏様がある。最近観光コースの必修課題に入れられた玉仏寺であり、比処の本尊は、その名の如く、白玉の菩薩様である。中国製でなく、その昔ビルマ当りで彫られたものとの事。そのつややかな宝石の肌は、あくまでも白く豊満であり、中国人離れた異国情緒のある顔、そしてキリッと紅を引いた口元には、かすかに微笑を浮かべ、その目元は、少しエキゾチックと云った方がよいような雰囲気をもみしだすけれど、中々の美女である。この様な色っぽい仏様は、他では見たことがなかった。故に、行く度に、

お線香をあげて、正面から、横からと、倦きずに眺めることにしている。

昔、ひっそりと静まり返っていた中宮寺で、あの柔和な表情で人々の心を魅き込んで行く彌勒菩薩の前に、べつたりと長時間座り込んで、倦かず眺め入ったこと、そこで色々話を交わした物静かな尼さん達の、クリ〜と刺り上げた坊主頭が、たまたまなく可愛いかったこと等を思い出す。

しかし、この中宮寺も、私が日本に舞い戻ってから行って見て、すっかり変わっていることに驚いた。あのどかだった大和平野も、自動車縦横に走り廻り、中宮寺も観光コースに入っているらしく、ひっきりなしに大型バスが訪れ、スピーカーから流れる解説のアナウンスの下に、団体客がゾロ〜と列をなして拝観していた。永遠の恋人”と或人が讃えたあの彌勒菩薩も、今はすっかり観光資源となっており、かつての静寂にして暖かい雰囲気も、感じられなくなつてしまっていた。

日本の仏様は、煩惱を克服し、現世を超越しているように思えるに對し、中国の仏様は、正に煩惱に苦しみ、その解決に取り組んでいる姿なのであろうか。

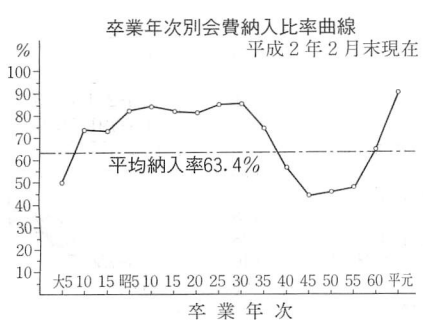
中国にしろ、日本にしろ、仏教は、全くの外からの伝来であるに

拘らず、受け入れる母体が異るとその表現が、こんなにも違ってくるのかと思う。これも、日本と中国とで、似ているようで全く似ていない点であろう。たゞ、由緒ある仏像も、だんぐ〜観光資源化して行くのは、中国も日本も、同様な傾向なのであろうと思う。

**卒業年次別会費納入状況について**

会員の皆さんのご協力で平成元年度の会計業務も完了しました。卒業年次別会費納入状況はグラフ(左図)の通りとなります。

会費納入対象者総数(A)五、一四名(昭和63年卒まで)で、納入者総数(B)三、二四〇名で平均納入率(B)/(A)は昨年に比較して約一%よくなっている。今年も皆様の洛友会をご支援お願い申し上げます。



**会 員 住 所 変 更 一 覧 表**

平成2年3月20日現在 (表中略敬称)

卒業年	氏 名	住 所	電 話
昭270	龍 澤 善 信	熊本市保田窪本町1118-110	862 096-383-8595
290	藤 田 善 英	東京都太田区北馬込1-16-7-809	143 03-772-2393
300	村 井 信 久	川崎市宮前区有馬4-2-17-502	213 044-852-8703
331	村 田 久 義	横浜市栄区本郷台2-16-3	244 045-891-0940
351	辻 久 義	横浜市栄区上郷町2179-75	247 045-892-1676
361	藤 井 義 泰	東京都文京区千石1-4-3 三菱電機小石川荘	112 03-942-4269
371	松 井 義 泰	勝田市石川町27-18	312 029-72-3927
392	吉 田 義 泰	稲城市向陽台3-27-13	206 0423-78-3131
402	黒 住 司 夫	横浜市緑区藤が丘1-48-45	227 045-972-9010
423	黒 桑 義 泰	大阪府豊能郡豊能町新光風台2-24-16	563-01 0727-38-6205
452	高 原 一 郎	枚方市東香里南町50-15	573 0720-54-3041
453	高 野 一 郎	座間市南栗原6-9-18	228 0462-55-8196
461	富 江 井 晴 省	神戸市東灘区向洋町中1-4-127-805	658 078-857-6241
463	横 井 井 晴 省	高槻市芝谷町10-25	569 0726-89-0362
463	横 井 井 晴 省	調布市佐須町2-16-2	182 0424-84-7070
473	毛 山 高 彰	神戸市中央区港島中町6-14-A1703	650 078-302-7736
473	尾 山 高 彰	春日井市高座台3-1-17	487 0568-91-4755
482	若 谷 誠 宏	奈良市神功2-3-26	631 0742-71-4905
483	丹 羽 彰 廣	奈良市あやめ池北1-5-11	631 0742-47-1594
492	松 原 正 成	京都府山科区柳辻中在家町 ラール山科スカイハイツ211	607 075-501-1069
493	中 尾 正 成	川崎市中原区新城2-12-5	211 044-752-6570
501	黒 江 本 田	府中市住吉町3-53-14 フレグランス萩原101	183 0423-65-5648
513	江 本 田 文 信	茅ヶ崎市富士見町8-11-1-307	253 0467-86-0729
522	江 本 田 文 信	京都府綴喜郡田辺町花住坂3-18-12	610-03 07746-3-5027

卒業年	氏名	住所	〒	電話
531	高瀬冬人	京都市左京区高野清水町42 森方	606	
531	成原引明	神戸市長田区御屋敷通3-1-2-304	653	078-611-0590
541	葛原正樹	厚木市妻田1158-1516	243	0462-22-0856
541	松下鶴一	船橋市習志野台5-39-3-105	274	0474-69-2920
542	神納祐一郎	春日井市高座台3-5-5	487	0568-92-7460
542	川口和久	明石市二見町西二見157-86	674	078-941-1758
542	辻井哲也	横浜市港南区上永谷3-2-2 朝日プラザ上永谷204	233	045-842-9734
542	堀部徹也	愛知県西加茂郡三好町東山台20-22	470-02	05613-4-3157
542	澤瀨樹男	長岡京市友岡2-3-30 鈴木ハイツ206	617	075-956-4705
543	田中孝一	枚方市出口6-1-1-421	573	0720-34-1688
552	梅田則弥	京都市右京区嵯峨伊勢上町10-1 ホルム嵐山204	616	
553	山口英一	横浜市緑区藤が丘1-48-19 プリミエール藤が丘303	227	045-972-1218
553	梅田香一	伊勢原市沼目1697-1-2-254	259-11	0463-93-2070
553	畑村敬一郎	横浜市緑区荏田南5-18-19-101	227	045-942-7682
553	田村昭宏	座間市南栗原2-2-45 コスモさがみ野102	228	0462-51-9451
562	三矢博和	横浜市泉区緑園4-2-1 サンステージ緑園都市6番館1107	245	045-813-3880
563	石上俊宏	相模原市相模大野5-21-3 YSセブンハイツ306	228	0427-49-6534
563	石崎雄夫	神戸市東灘区田中町1-3-27-302	658	078-453-2219
563	五村福明	奈良市大森西町3-14	630	0742-36-1246
571	村岡豊	京都市北区大宮西野山町25-21 (留守宅)	603	075-492-6383
582	吉本昌雅	京都市伏見区桃山町泰長老桃山東合同宿舍941	612	075-611-4096
583	片小澤俊	門真市石原町21-6 Kリトルタウン101	571	06-902-4168
592	寺澤敬	つくば市並木3-604	305	0298-51-5344
593	小松敬三	大阪市鶴見区鶴見1-3-51 エメラルドマンション鶴見緑地810	538	06-912-9950
601	加納昌明	大阪市東淀川区豊里2-1-3-415	533	06-370-2685
601	滝沢浩史	明石市大久保高丘3-1-2 大久保東第2団地37-102	674	078-934-3080
601	若葉浩	愛知県葉栗郡木曽川町大字黒田字北宿5の切48-5	493	0586-86-5852
602	竹松堅一	高槻市高槻町2-18 高槻ハイム104	569	0726-85-5465
602	松本裕裕	広島市中区江波南2-12-10-909	730	082-295-2278
602	宮田明也	神戸市垂水区向陽2-3-18 農住 J404	655	078-706-3160
602	藤間智	芦屋市緑町1-16-202	659	0797-22-6701
603	岩根靖洋	京都市中京区御幸町通蛸薬師上ル伊勢屋町353	231	075-231-8548
612	岩清水一	尼崎市南清水2-1三菱電機猪名野寮	661	06-491-5529
621	清水正智	福岡市中央区大手門3-4-15サンライズ奥元303	810	092-475-5190
621	高山橋己生	東京都北区赤羽北2-19-6-103	115	03-905-6919
621	山浦朗之	習志野市津田沼2-9-1郵政省津田沼宿舍313	275	0474-79-3155
622	山六恒	名古屋市緑区作の山町167朝日鳴海寮	458	052-891-4230
623	芳松賀	座間市相武台2-183N T T相武台寮A-104	228	0462-52-6525
633	松島滋昇	東京都大田区鶴の木2-17-18富士通鶴の木寮222	146	03-756-7555
平011	山本昌	大阪狭山市東野中3-1157	589	0723-65-3164
013	萩原昌明	横浜市中区蓬萊町2-5-4日興證券関内寮	231	045-251-0753

**お詫びと訂正**

平成2年1月1日発行の会報150号(10頁)に次記のとおり誤植がありましたので謹んで訂正致します。

1 3段目5行に在倒的↓庄倒的

2 4段目9行にアラデミック↓アカデミック

3 5段目16行に植木や植草↓枯木や枯草

**連絡・ご挨拶**

会員の皆様ご壮健にてご活躍のことと拝察し申し上げます。平素は洛友会に対して何かとご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて永年洛友会の仕事をされていた竹村清常任幹事(勲応用科学研究所常務理事)が、昨年11月10日逝去されました。その後を受けて今般(勲応用科学研究所の工場長)より常務理事に就任いたしました矢木原邦雄が従来通り当研究所にて洛友会のお世話をさせて頂きたいと存じます。故竹村清氏は講習所の出身で洛友会会員でもありましたので、常任幹事として洛友会の事務処理の要として活躍されていきました。ところが新任の小生は洛友会会員ではありません。しかし当研究所の常務理事が洛友会の事務を処理する体制を急に崩す訳にはまいりません。それで洛友会に、

はまいりません。それで洛友会に、

皆様の指示が教示を得て、頑張りますが、前任者のように円滑な処理は当面望むべくもありません。何卒ご寛容の上よろしくご指導の程お願い申し上げます。

(事務局矢木原邦雄記)

講大	講大	講大	講大	講大	講大	講大	講大	講大	講大
8	12	13	14	14	14	14	14	14	14
齊藤	中野	村上	藤田	来代	松森	野口	伊藤	濱崎	水野
清	市松	竹夫	伊八郎	軍二	茂雄	一	久昭	博	勝己
1	1	1	63	63	63	63	63	63	1
11	10	2	11	11	11	11	11	5	12
25	14	18	17	11	26	10	18	18	

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

